

神戸市の人口推移：明治から令和までの変遷

本プレゼンテーションでは、神戸市の人口推移について、明治時代の市制施行から現在に至るまでの長期的な変化を分析します。神戸市の人口動態は、日本の近代化、戦争、自然災害、経済発展など、様々な歴史的要因によって影響を受けてきました。

市制施行時から2010年頃までは基本的に増加傾向にありましたが、その後は減少に転じています。このプレゼンテーションでは、神戸市の人口推移の特徴と転換点を時代ごとに整理し、その背景要因について考察します。



投稿者：宏明 田中



神戸市の概要と調査方法

神戸市の概要

神戸市は兵庫県の南東部に位置する政令指定都市で、兵庫県の県庁所在地です。1889年（明治22年）4月1日に神戸区に葺合村、荒田村を併合して誕生しました。当時の人口は約13万5千人でした。

神戸市は開港以来、国際貿易港として発展し、市域の拡大とともに人口も増加してきました。しかし、第二次世界大戦の神戸大空襲や阪神・淡路大震災など、大きな災害によって人口が一時的に減少する時期もありました。

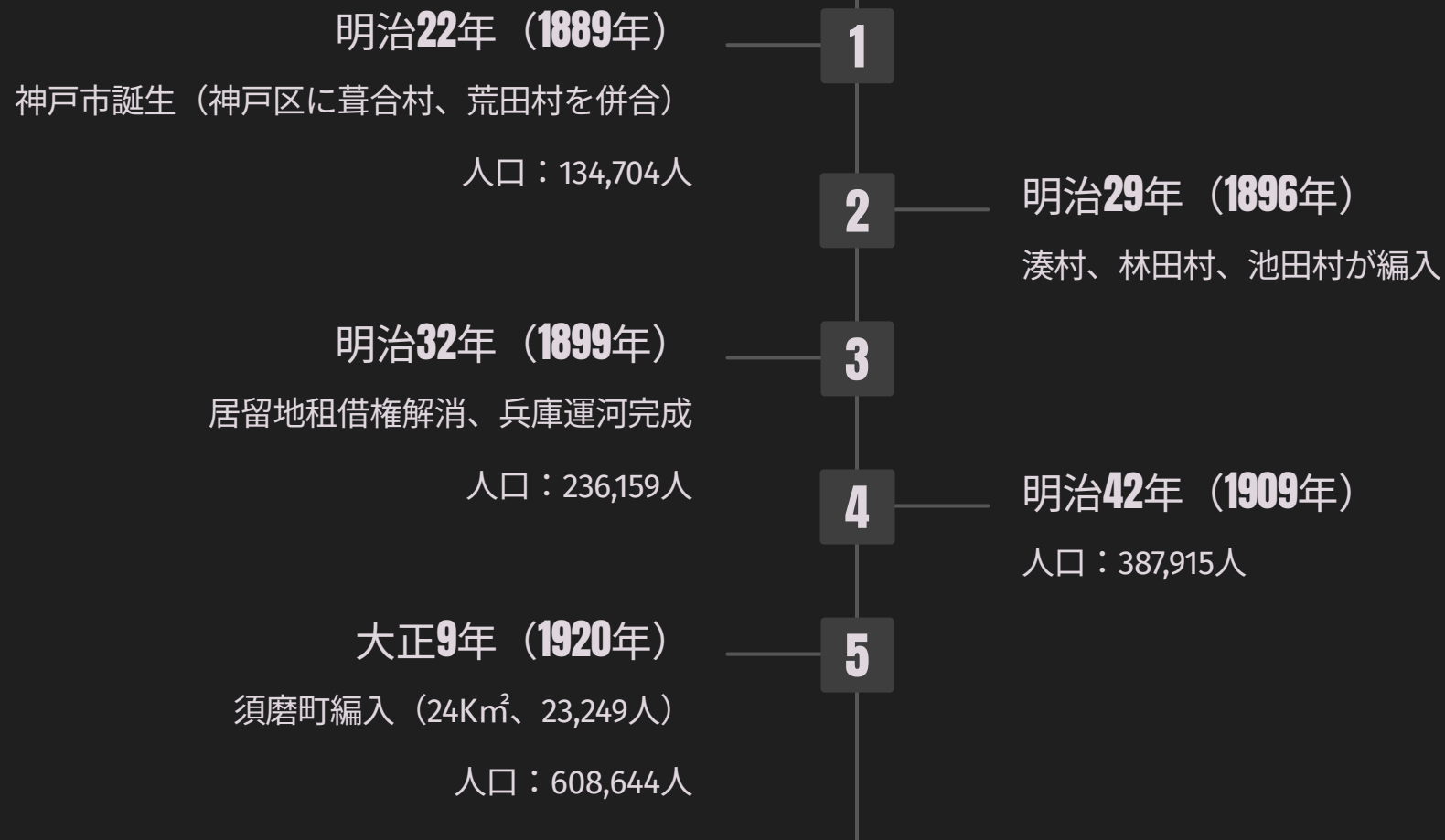
調査方法

本調査では、以下の情報源から神戸市の人口データを収集しました：

- 神戸市公式サイト（神戸市統計書）
- 「散策とグルメの記録」ブログ
- その他の歴史資料・統計データ

収集したデータは時系列で整理し、Pythonを使用してグラフ化しました。

明治・大正時代の人口推移（1889年-1925年）



明治・大正時代の神戸市は、市域の拡大や工業化の進展により人口が急速に増加しました。市制施行から約30年で人口が4倍以上に増加し、国際貿易港としての地位を確立していきました。

昭和時代（戦前）の人口推移（1926年-1945年）

昭和4年（1929年）

西郷町、六甲町、西灘町編入（19Km²、60,163人）

昭和5年（1930年）

人口：787,616人

大正時代から継続的に人口が増加し、80万人近くに達しました。

昭和15年（1940年）

人口：967,234人

戦前のピークとなる約97万人に達し、100万人都市へと近づいていました。

昭和16年（1941年）

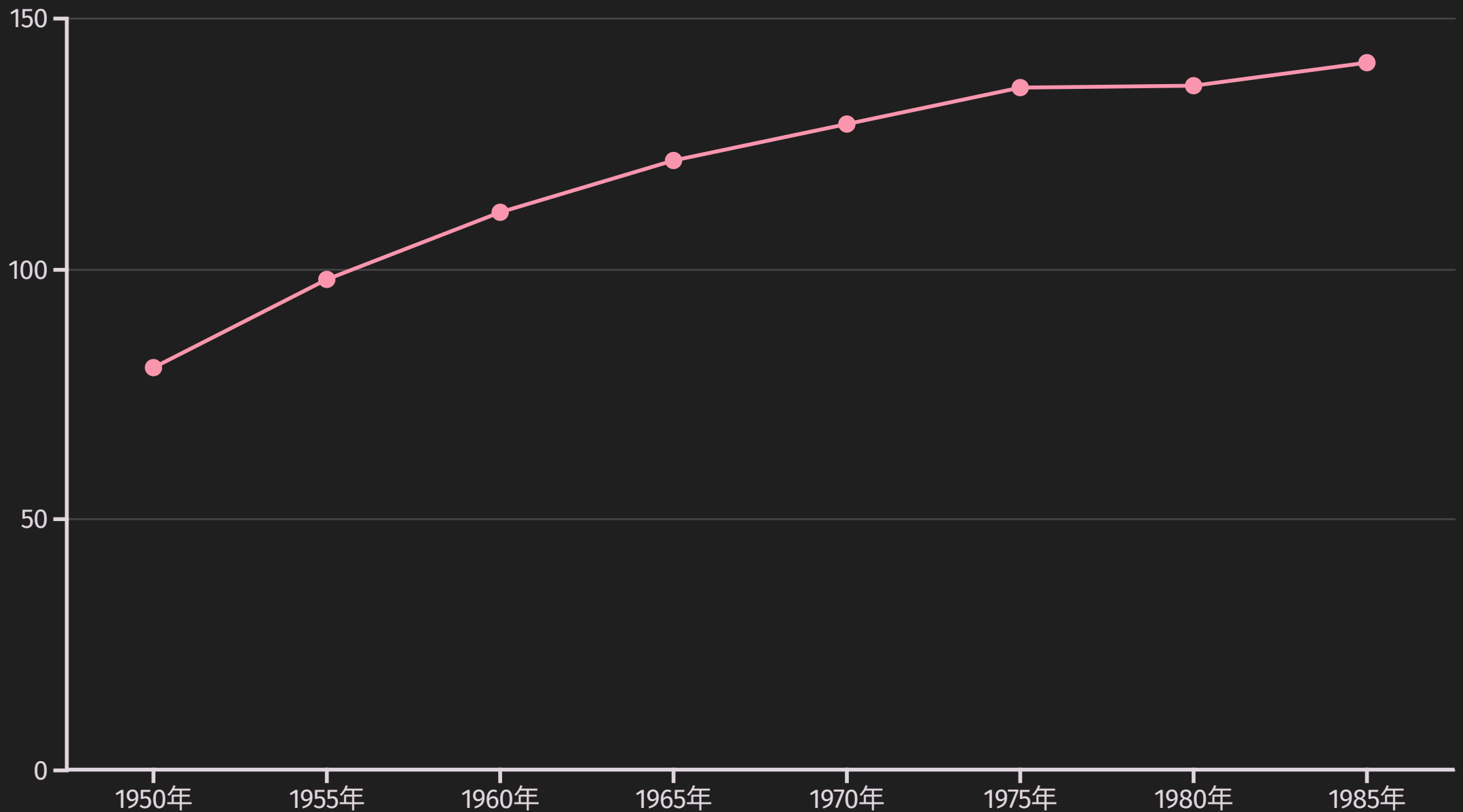
垂水町編入（32Km²、23,140人）

昭和20年（1945年）

神戸大空襲により人口が378,592人まで減少

戦争の影響で人口が激減し、戦前の約3分の1にまで落ち込みました。

昭和時代（戦後）の人口推移（1946年-1988年）



戦後の神戸市は急速に復興し、人口も回復していきました。昭和22年（1947年）には有馬町、有野町など10町村を編入し、市域が大幅に拡大しました（275Km²、58,968人増加）。昭和25年（1950年）には御影町、魚崎村、住吉村を編入し、東灘区が発足しました。

昭和35年（1960年）には人口が100万人を超え、昭和45年（1970年）には約129万人、昭和60年（1985年）には約141万人に達しました。高度経済成長期の産業発展と都市化により、人口は着実に増加していきました。

平成時代の人口推移（1989年-2019年）

1

平成2年（1990年）

人口：1,477,410人

バブル経済の影響もあり、人口増加が続いていました。

2

平成4年（1992年）

人口：約1,499,195人

神戸市の人口が150万人を突破し、大都市としての地位を確立しました。

3

平成7年（1995年）

人口：約1,423,000人

阪神・淡路大震災により人口が一時的に減少しました。多くの市民が被災し、市外への転出が増加しました。

4

平成12年-22年（2000年-2010年）

人口：1,493,398人→1,544,200人

震災からの復興が進み、人口も回復。平成22年（2010年）に過去最高の約154万人に達しました。

5

平成27年（2015年）

人口：1,537,272人

ピークを過ぎ、緩やかな減少傾向に転じました。少子高齢化の影響が顕著になり始めました。

令和時代の人口推移と今後の展望

1,529,756

令和元年（2019年）人口

前年比 -0.18%

1,517,073

令和3年（2021年）人口

前年比 -0.53%

1,499,887

令和5年（2023年）人口

前年比 -0.68%

令和時代に入り、神戸市の人口減少は継続しています。特に令和3年（2021年）以降は減少率が拡大傾向にあり、令和5年（2023年）には約150万人となりました。これは平成4年（1992年）の水準に近く、約30年ぶりの水準です。

少子高齢化の進行や都市間競争の激化により、人口減少に歯止めをかけることは容易ではありません。神戸市が持続可能な発展を遂げるためには、産業構造の転換、都市の魅力向上、子育て支援の充実、高齢者福祉の充実などの取り組みが重要と考えられます。

人口変動の要因と結論



神戸市の人口は、明治22年（1889年）の市制施行以来、市域の拡大や産業の発展により増加を続けてきましたが、2010年頃をピークに減少傾向に転じています。この人口推移は、神戸市の都市としての発展過程や、戦争・災害などの歴史的出来事、そして現代の少子高齢化という社会的課題を反映しています。

今後、神戸市が持続可能な都市として発展していくためには、人口減少という現実を直視しつつ、都市の魅力を高め、多様な世代が安心して暮らせる環境を整備していくことが求められます。